

審判員派遣報告書

1	派遣事業名	B.LEAGUE チャレンジ	2	派遣期日	2019. 4. 7(土)
3	報告者名	小島 慶子 (社会人連盟)	4	派遣先	エスフォルタアリーナ八王子

5	大会概要 および 大会結果				
	大会名称	京王電鉄杯	大会期間	4/6, 7, 13	
	大会内容	慶応義塾、早稲田、明治、法政、東京、中央、専修、日本、青山学院、拓殖の10大学によるリーグ戦			

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	CC/U	相手審判	ゲーム雑感
1	4月7日(日)	中央ー早稲田	CC	U1 山本氏(三重) ブロック U2 上田氏(富山) フレッシュマン	ゲーム序盤、早稲田のシュートが良く決まり一気に引き離したが、プレッシャーの強いディフェンスから中央がリズムを掴み、逆転勝利をおさめた。 中央73ー66早稲田
2					

7	審判会議・その他ミーティング等内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等				
<p>2018-19シーズンのWリーグ担当審判員を対象に2019-20シーズンのB.LEAGUE担当希望調査がありました。継続を含め10名の希望があり、うち4名が男性S級一次審査会(於京王電鉄杯)にて「B.LEAGUE チャレンジ」としてT級インストラクターによる実技審査を受けました。</p> <p>開講式、閉講式、ゲーム後のMTGはなく、ルールテスト、フィットネステストもここでは行われません。ルールは、新ルール採用ですので、A級を目指している方は、常に新ルールの情報収集とそれを使用したゲームに慣れておくことも大事だと思いました。</p> <p>○プライマリの理解 ・ダブルコールの際のプライマリテイク 誰がテーブルに持って行くのか。 プライマリがどちらか分かっているのか。</p> <p>○プレゼン ・タフなゲームに耐えうる見せ方、力強さは常に研究していく必要があると感じました。</p> <p>○EOQ、EOG、RIQ ・どのゲームにも必ずあるEOQ、EOGで、その時プレイヤーやチームは何を狙ってくるのか、時計は誰が握っているのか。</p> <p>○約束事の確認 ・OOB、2or3、Cサイドにボールが運ばれてくる時、トランジション時の対応、メカが崩れた時etc...</p> <p>PGCでは、ベーシックを遂行すること。判定はシンプルに、コミュニケーションはまず聞くことから。曖昧なまま進めない。3人で常に決めていくこと。処置はミスなし。40分間、3人で淡々と明らかなものを積み上げていく。タフな時間帯が絶対に来るから、その時こそベーシックを意識して、と伝えました。キャリアは関係なく、今のシステムを信用し、クルーを信頼することが、誰と組んでも大切で、良いゲームに繋がるのだと改めて感じました。 あとは、このような経験をさせていただく中で、いいゲームだった、いいクルーだった、の感想だけで終わらず、何が課題で自分に足りないところなのか、正しく自己評価できることが次につながるのだと思いました。審査が終わってホッとするよりも、身の引き締まる思いです。 今回、B.LEAGUEチャレンジという機会をいただき、県内では伝達講習会がありましたが、快く送り出してくださいました皆様に感謝申し上げます。女性でも、チャレンジできる機会があることを県内、また四国ブロックの女性に伝えていきます。学んだことを今後も活かし、自身のさらなる成長と組織の発展に努めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。</p>					

審判員県外派遣報告書

1	講習会名 (大会名)	京王電鉄杯		
2	報告者	藤田 公介	所属連盟	U18
3	期 日	2019年4月6日(土)～7日(日)		
4	講 師	なし		
5	参加者	ブロック推薦及びフレッシュマンの男性A級審判員62名 Bリーグチャレンジの女性S級審判員4名		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲ ー ム 雑 感
1	4月7日	明治vs拓殖	U1	CC:石嶺良方(沖縄) U1:大下俊之(島根)	明治の方が高さでフェード力が勝っており、得点を重ねる。オールコートディフェンスで逆転を試みるも明治の勝利で終了

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等				
<p>①新ルールについて 今回の試合で起こったケースとして、・新たにフロントコートでスタートする時のSC14秒スタート、・4Q 残り2分を切った時のスローインの際のプリベンティブングナル、・タイムアウト後のスローインの再開場所、・UFの時の再開場所とSC14秒であった。 前日のカンファレンスでクリップを見ながら新ルールについて確認し、クルーで共通理解を持っていたので、どれもミスなく対応できた。新ルールを意識することで、より一層クロック管理の重要性を感じた。</p> <p>②プライマリ カンファレンスでプライマリの確認をしたが、やはり自分がセカンダリの時に同じように笛を入れてしまうケースがあった。 特に自分がT,Cの時にリードプライマリのリバウンドファールに対して笛を入れることがあった。 「今、自分が何番手なのか?」という意識と「判定をして笛を吹くまでの一呼吸」を持つ必要がある。</p> <p>③マージナル 大学生に限らないが、身体の接触について、イリーガルなのかマージナルなのかの判定を突き詰める必要がある。接触があり、その責任がディフェンスであってもオフェンスのRSBQが崩れていなければ、笛を入れる必要はない。しかし、オフェンスのRSBQをスタート・ディベロップ・フィニッシュの一連の流れで見ることができずに、結果だけを見てファールを吹いてしまうケースがあった。オフェンスとディフェンスの関係性を最後まで見届けて笛を入れるようにしなければいけない。</p> <p>今回、京王電鉄杯に参加させて頂いて、CCとしてどのように試合当日に向けて準備を進めていくかを学んだ。割り当てが決まった時にCCから連絡を頂き、前日までの諸連絡や前日にクルーでスカウティングをしたり、夜のカンファレンス、当日の朝からのスケジュールなど、我々アンパイアが不安に思わないように心掛けてくれた。オンザコートだけでなく、コートに立つまでの間の連携についても非常に勉強になった。県内で自分がCCをする時は、今回の経験を活かし、クルーを導いていきたいと思った。</p> <p>最後になりましたが、今回派遣して頂きました審判グループの皆様には感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>					